



シンポジウム

「崖の上の美術館 – 宮城県美術館の立地と地層 –」

〈日時〉 2020年11月21日(土) 13:00-16:00

〈会場〉 エル・パーク仙台 6階スタジオホール

〈主催〉 宮城県美術館の現地存続を求める県民ネットワーク

13:00-13:05 開会挨拶とシンポジウム趣旨説明(森一郎)

13:05-13:15 これまでの活動と県美移転問題の現状(西大立目祥子)

13:15-15:10 三つの講演:「宮城県美術館の立地と地層」をめぐる

13:15-13:50 講演①「仙台の文化を支えた広瀬川」

蟹澤聰史(東北大学名誉教授/地質学) 司会:花輪公雄

13:50-14:25 講演②「長町-利府断層帯の表と裏」

大槻憲四郎(東北大学名誉教授/地質学) 司会:芳賀満

<休憩 10分>

14:35-15:10 講演③「美術館の立地と環境」

井上研一郎(宮城学院女子大学名誉教授/美術史) 司会:尾崎彰宏

15:10-15:55 総合討論(進行:森一郎)

15:55-16:00 シンポジウム総括と閉会挨拶(野家啓一)

◆総合司会:虫明美喜

〈会場における新型コロナウイルス感染防止対策に関して〉

より安全な環境の維持のため、参加者の皆様にも下記の点についてどうかご理解いただき、ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

- 会場出入口に手指消毒液を準備しておりますので、適宜ご利用ください。
- ご着席後もマスクをご着用ください。
- ご指定の座席以外へのご着席は ご注意ください。
- 入場・退場時には、他の参加者の方との距離をとっていただきますよう、お願いします。また、混み合った場合には事務局スタッフが整列をお願いする場合がございますので、ご協力願います。

講演者プロフィール

かにさわ さとし
蟹澤 聰史

長野に生まれる。1964年、東北大学大学院理学研究科地学専攻博士課程修了。東北大学教養部教授、理学部教授を経て、現在、東北大学名誉教授。専攻は地質学、とくに岩石学、地球化学。著書に『石と人間の歴史 地の恵みと文化』（中公新書）、『おくのほそ道を科学する』（河北新報出版センター）等。河北新報「持論時論」に県美移転問題で二度投稿。

おおつき けんしろう
大槻 憲四郎

福島に生まれる。1974年、東北大学大学院理学研究科地学専攻助手。東北大学理学研究科地学専攻助教授、教授を経て、現在、東北大学名誉教授。専攻は地質学、とくに断層と地震、プレートテクトニクス。阪神大震災直後に活断層を実地調査、長町一利府断層帯も調査研究。共編著に『建設技術者のための東北地方の地質』（東北建設協会）。論文多数。

いのうえ けんいちろう
井上 研一郎

東京に生まれる。1977年、東北大学大学院文学研究科美学・美術史専攻修士課程修了。北海道立近代美術館・北海道立三岸好太郎美術館学芸員、宮城学院女子大学学芸学部人間文化学科教授を経て、現在、宮城学院女子大学名誉教授。専攻は日本美術史、とくに、やまと絵史、近世北海道美術。著書に『山口蓬春 新日本画への展開』（北海道新聞社）等。

司会者紹介（登壇順）

はなわ きみお
花輪 公雄

東北大学名誉教授、元理学研究科長、元理事（教育・学生支援）。専門は海洋物理学。

はが みつる
芳賀 満

東北大学高度教養教育・学生支援機構教授、総長特別補佐。日本学術会議会員。専攻は考古学。

おぎき あきひろ
尾崎 彰宏

東北大学大学院文学研究科教授。宮城県美術館協議会会長。専攻は美学、美術史。

事務局紹介（登壇順）

むしあけ みき
虫明 美喜

宮城県美ネット事務局。宮城教育大学特任准教授。専攻は日本近代文学、言語教育。

もり いちろう
森 一郎

宮城県美ネット事務局次長。東北大学大学院情報科学研究科教授。専攻は哲学。

にしおおたちめ しょうこ
西大立目 祥子

宮城県美ネット共同代表。まち遺産ネット仙台代表。アリスの庭クラブ代表。

のえ けいち
野家 啓一

宮城県美ネット共同代表。東北大学名誉教授。立命館大学客員教授。専攻は哲学。